

令和5年度
発生予察情報

発生予報第8号（概要版）

令和5年8月7日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	穂いもち	発生量: 平年並	
	紋枯病	発生量: 平年並	
	斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)	発生量: 多い	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
大豆	紫斑病	発生量: 平年並	
	アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガ アブラムシ)	発生量: 平年並	
	ウコンノメイガ	発生量: やや少	
	吸実性カメムシ類	発生量: やや多	
	フタスジヒメハムシ	発生量: やや少	
	マメシンクイガ	発生量: やや少	
	食葉性チョウ目幼虫 (オオタバコガ、 ツメクサガ)	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	キンモンホソガ	発生量: 平年並	
	果樹カメムシ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
なし	黒星病	発生量: 少	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	果樹カメムシ類	発生量: やや多	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
いちご	うどんこ病	発生量: 平年並	
	炭疽病	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 多い	

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第9号の発行日は8月28日(月)の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所 メルマガ

トップページ

登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 26～28 日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台8月3日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
穂いもち	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、葉いもちの発生地点率は平年よりやや高かったが、発病株率は平年並であった。また、上位3葉における葉いもちの病斑数は平年並であった。(/±～+)
- (2)曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率、発病株率及び発病度はいずれも平年並であった。(/±)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)	ー	多い

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、本田におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率及びすくい取り虫数は平年並であり、本田への侵入が確認された。(/±～+)
- (2)巡回調査の結果、イネ科植物が出穂している草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率及びすくい取り虫数は平年並であった。また、カスミカメムシ類幼虫の発生地点率は平年並であったが、すくいとり虫数は平年より多く、過去 10 か年で最も多かった。(/+)
- (3)定点調査及び有効積算温度シミュレーションの結果、アカスジカスミカメの第2世代成虫発生盛期は平年(8月第5半旬)より早い8月第2半旬と推測される。(/+)
- (4)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・県全体の出穂期は7月30日で平年(8月2日)より3日早かった(みやぎ米推進課発表)。出穂が遅れているほ場や晩生品種についても、ほ場の出穂状況を参考に各病害虫の適期防除を実施する。

(2) 穂いもち

- ・茎葉散布剤による防除は1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施する。
- ・上位葉の葉いもちの発生が多く穂いもちが多発するおそれがある場合や、出穂期間が長引く場合は3回目の防除を穂揃期の7～10日後に実施する。
- ・「金のいぶき」は穂いもちの抵抗性がやや弱いため、穂いもち防除を3回実施する。
- ・8月7日現在、BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果では、7月中旬に県広域で感染好適条件が出現したが、7月下旬以降はほとんど出現していない。最新の推定結果は以下の URL を参照する。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) 紋枯病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では以下の要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・要防除水準:「ひとめぼれ」の減収率を5%以上と想定した場合、穂ばらみ期の発病株率は18%以上となる。要防除水準に達した場合、防除を実施する。
※普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤または穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。
- ・多発が予想されるほ場では、穂揃期による追加防除を実施する。

(4) 斑点米カメムシ類

- ・防除情報第5号(8月4日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05bojono05.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 26～28 日

天候予報:仙台管区气象台8月3日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年並であったことから、伝染源量は平年並であると推測される。(/±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類 (ジャガイモヒゲナガアブラムシ)	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生頭数は平年並であった。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ウコンノメイガ	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、葉巻数は平年よりやや少なかった。
(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
吸実性カメムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年より多かった。
(/+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、寄生頭数は平年よりやや少なかった。
(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
マメシンクイガ	—	やや少

予報の根拠

(1) 前年の子実調査の結果、発生量が平年よりやや少なかったことから、越冬量は平年よりやや少ないと推測される。(/ -)

病害虫名	発生時期	発生量
食葉性チョウ目幼虫 (オオタバコガ、ツメクサガ)	—	やや多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、寄生頭数は平年よりやや多かった。
(/ +)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

・本年は大豆の開花が早まっている。大豆の生育ステージをよく確認し、各病害虫に対して適期防除を行う。

※本年の開花期(大崎市古川)

タンレイ(5/25 播種):7/18(平年差-6日)

ミヤギシロメ(5/25 播種):7/27(平年差-4日)

ミヤギシロメ(6/15 播種):8/4(平年値なし)

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

・べと病及び土壌伝染性病害(茎疫病、黒根腐病)の発病を防止するため、明きよや暗きよの補修・点検を行い、排水対策を徹底する。

(2) 紫斑病

・大豆の生育ステージをよく確認し、開花期の20~40日後に1~2回薬剤防除を実施する(図1)。

・アゾキシストロビンに対する感受性低下菌の発生が確認されている。薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤の使用を検討する。

※普及に移す技術第97号参考資料「ダイズ紫斑病のアゾキシストロビンに対する薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r3hukyuugi25.pdf>

(3) アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

・例年、8月下旬~9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は防除を徹底する。

・防除後も密度が低下しない場合や、急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。

- ・葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏によくかかるように散布する。

(4) ウコンノメイガ

- ・ほ場内の葉巻率または葉巻数を確認し、要防除水準を参考に防除適期の8月上旬に速やかに薬剤防除を実施する。

※普及に移す技術第 90 号参考資料「ウコンノメイガの被害解析と要防除水準」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305992.pdf>

(5) 吸実性カメムシ類

- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期から子実肥大中期を重点に2回以上薬剤を散布する。
- ・今後の発生がやや多くなると予想される。よってほ場の発生状況に注意し、適期防除を実施する。
- ・越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなる恐れがあるので注意する。

(6) フタスジヒメハムシ

- ・第2世代成虫の発生盛期(平年:8月下旬～9月上旬)に薬剤散布を実施する。

(7) マメシンクイガ

- ・発蛾最盛期とふ化盛期(8月下旬とその7～10日後の9月上旬)にかけて1～2回薬剤を散布する。

- ・本虫による被害は、ダイズの連作4年目以降から特に被害が大きくなることが知られている。連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、より効果の高い薬剤を選定する。

※普及に移す技術第 84 号参考資料「マメシンクイガのダイズの総合的有害生物管理(IPM)における効果的防除法」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/69922.pdf>

※普及に移す技術第 94 号参考資料「ダイズのマメシンクイガに対するフルキサメタミド乳剤およびクロラントラニプロール水和剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735224.pdf>

(8) 食葉性チョウ目幼虫(オオタバコガ、ツメクサガ)

- ・今後の発生がやや多くなると予想され、突発的に集中発生することもあるため、ほ場をよく観察し、若齢幼虫期の薬剤防除を徹底する。両種が混発している場合は、フルベンジアミド水和剤による同時防除が可能である。

※普及に移す技術第 98 号参考資料「大豆栽培におけるタバコガ類に対するフルベンジアミド水和剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/22r04sankou11.pdf>

- ・幼虫の発生密度は開花始期頃にピークを迎える。ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高くなるので注意する。

※普及に移す技術第 94 号参考資料「ダイズほ場におけるタバコガ類幼虫の発生消長」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735197.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 26～28 日

天候予報:仙台管区气象台8月3日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、徒長枝及び新梢における発生地点率は平年より高かった。発病葉率は、徒長枝及び新梢ともにほぼ平年並であった。発病果は平年と同様にみられなかった。
(/±～+)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び1葉当たりの寄生頭数は平年並であった。(/±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
キンモンホソガ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かったが、被害葉率は平年並であった。
(/±～+)
- (2)20～25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。
(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かったが、被害果率は平年並であった。
(/±～+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少くなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年2回以内の使用とし、連用しない。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 斑点落葉病

- ・徒長枝や二次伸長した新しい展開葉等における発生状況を観察し、防除を実施する。
- ・病勢が一時停滞したように見えても、高温多湿の気象条件が続くと再び病勢が進展するおそれがあるので、計画的に防除を実施する。
- ・不要な徒長枝等を取り除き、伝染源を減らすとともに薬剤が樹木全体に行き渡るよう管理する。

(3) ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合があることから、発生状況をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

※普及に移す技術第94号参考資料「りんごのナミハダニに対する殺ダニ剤の効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735204.pdf>

(4) キンモンホソガ

- ・現在発生している成虫は新梢葉を主体に産卵するため、新梢葉での発生状況に注意する。
- ・徒長枝にも多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

(5) 果樹カメムシ類

- ・防除情報第6号(8月4日発表)を参照。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05bojono06.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査: 7月 26～28 日

天候予報: 仙台管区气象台8月3日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、新梢葉と果そう葉における発病葉率及び発病果率はいずれも平年より低かった。(/ー)
- (2) 気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かったが、1葉当たりの寄生頭数は平年並であった。(/±～+)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、被害果率は平年並であった。(/±～+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・品種による収穫期の早晩を考慮し、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。

・薬剤は、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 黒星病

・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分するとともに、不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹木全体に行き渡るように管理する。

・「幸水」は果実肥大後期でも黒星病に感染しやすいため、特に注意する。

(3) ハダニ類

・一部殺ダニ剤で効果が低下している事例がある。また、薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。よってそれらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

・発生の多いほ場では、薬剤防除等によりハダニ類の密度を低下させ、翌年の発生を抑えることが重要である。

(4) 果樹カメムシ類

・防除情報第6号(8月4日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05bojono06.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月28、31日(育苗ほ)

天候予報:仙台管区气象台8月3日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率及び発生地点率は平年並であった。(/±)
- (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
炭疽病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率は平年並であった。(/±)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	多い

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率及び発生地点率は高かった。(/+)
- (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- 適切な肥培管理及び予防防除を徹底し、健苗育成に努める。
- いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離れた時点から収穫終了までとなる。
- 本ほの初期病害虫発生原因の多くは育苗から持ち込みであるので、親株・育苗期間中もしっかり防除を行う。
- 施設周辺および施設内の雑草は害虫の発生源なのでほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

・IPM 体系による防除は下記を参照する。

※宮城県いちご IPM マニュアル 2019 年版 (PDF:6,731KB)

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

・定植後に天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。

・薬剤は『宮城県農作物病虫害・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

・こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。

・育苗ほでの UV-B 電球形蛍光灯照射は、うどんこ病の発生抑制に有効である。

(3)炭疽病

・発病株は伝染源となるので、ほ場内をよく見回り、見つけ次第早急にその周辺の株も含め抜き取り適切に処分する。

・水滴の跳ね上がり等で伝染するので、育苗ほでは可能な限り頭上かん水は避け、かん水チューブや底面給水等によりかん水を行う。また、葉の濡れ時間が長くならないよう遅い時間のかん水は避け、日没までに水滴が乾くよう実施する。

・発病株の残渣が土壌中に残り伝染源となるため、使用資材は農業資材用の消毒剤で洗浄するか、更新する。

・高温多湿は病原菌の増殖に好適であるとともに、苗が軟弱になり炭疽病にかかりやすくなるとされるので、ハウスの排水対策を徹底する。また、遮光率の高い遮光資材はかけっぱなしにせず必要に応じて開閉し、ハウス内の日照量を増やすなどして健全育苗に努める。

・予防散布の徹底が重要であり、薬剤抵抗性の発達を防ぐため FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、QoI 剤 (FRAC:11) の耐性菌が確認されているので留意する。

※「普及に移す技術」第 89 号 (平成 26 年発行) 参考資料「QoI 剤耐性イチゴ炭疽病の発生と有効な防除薬剤」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/256498.pdf>

(4)ハダニ類

・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。

・定植前の高濃度炭酸ガス施用は効果が高いが、苗へのハダニの寄生数が多いと効果が不十分になるおそれがあるので、親株～育苗期も防除に努める。

・気門封鎖剤は物理的に作用する薬剤であり、対象害虫にかかると効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布する。

・ほ場により効果が低下している殺ダニ剤があるため、薬剤の選定に留意し IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第 91 号 (平成 28 年発行) 参考資料 21「イチゴのナミハダニに対する殺ダニ剤の効果」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20131/91sankoushiryou21.pdf>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム